

# 哲学・倫理学の輪郭を(ざっくり)つかむための読書ガイド

## 0 事典・用語集

- 永井均ほか編『事典 哲学の木』(講談社, 2002)
- 大庭健ほか編『現代倫理学事典』(弘文堂, 2006)
- ジュリアン・バジーニ/ピーター・フォスル『哲学の道具箱』(共立出版, 2007)
- ジュリアン・バジーニ/ピーター・フォスル『倫理学の道具箱』(共立出版, 2007)
- 児玉聡「哲学・倫理学用語集」(online, <http://plaza.umin.ac.jp/kodama/ethics/wordbook/>)

## 1 哲学・倫理学の諸テーマ

- 門脇俊介『哲学教科書シリーズ 現代哲学』(産業図書, 1996)
- 野矢茂樹『哲学の謎』(講談社現代新書, 1996)
- 野矢茂樹『哲学・航海日誌』(春秋社, 1999)
- 麻生博之・城戸淳編『哲学の問題群 もう一度考えてみること』(ナカニシヤ出版, 2006)
- サイモン・ブラックバーン『ビッグクエスチョンズ 哲学』(ディスカバートウエンティワン, 2015)
- ジェームズ・レイチェルズ『現実をみつめる道徳哲学 安楽死からフェミニズムまで』(晃洋書房, 2003)
- 永井均『倫理とは何か 猫のアイジヒトの挑戦』(ちくま学芸文庫, 2011)
- ジュリアン・バジーニ『ビッグクエスチョンズ 倫理学』(ディスカバートウエンティワン, 2015)
- 品川哲彦『倫理学の話』(ナカニシヤ出版, 2016)

## 2 個別の哲学者たちについて

- 『哲学の歴史』全12巻+別巻(中央公論新社, 2007-2008)  
西洋哲学史に登場する主要な哲学者がほぼ全て網羅されているだけでなく、近年の研究状況を反映した記述になっている。巻末の文献ガイドが非常に役に立つ。専門的に研究をしたいひとは必携。
- 貫成人『図説・標準 哲学史』(新書館, 2008)  
あっさり目だが読みやすい。著者は哲学史の入門ガイドを数多く出していてどれも面白いが、これがスタンダードだろう。

- 田辺秋守『ビフォア・セオリー 現代思想の争点』（慶應義塾大学出版会，2006）

20世紀後半以降のフランスやドイツの現代思想や批判理論は多くの前提知識を必要とする難物だが、この本は整理が行き届いており、実際に現代思想家の本を読む前の下図を提供してくれる。

### 3 勉強に役立つシリーズもの

- 〈一冊で分かる〉シリーズ（岩波書店）

オックスフォード大学の Very Short Introduction シリーズを和訳したもの。歴史、宗教、政治、自然科学、人文科学、哲学といった幅広いテーマに対応している。初学者向けだがレベルは落としていない。

- 〈現代哲学への招待〉シリーズ（春秋社）

青、赤、紫、緑に色分けされているが、初学者向けの青色の装丁のものをまずは読むことを勧める。

- 〈哲学のエッセンス〉シリーズ（NHK 出版）

主要な哲学者の名前ごとに刊行されている。総じてかなり癖が強いが、読み応えがある。

### 4 論文の書き方

- 戸田山和久『新版 論文の教室—レポートから卒論まで』（NHK ブックス，2012）

- 石黒圭『この1冊できちんと書ける! 論文・レポートの基本』（日本実業出版社，2012）

レポート執筆までにレポートの書き方についての本を必ず読んで欲しい。良書が多い分野だが、この二つは採点者の目線が入っていて有益だろう。

### 5 本の選び方

- 薄くて読みやすい／買いやすいのでなにかについての知識を得ようと思ったときに私たちはどうしても新書に目がいってしまいがち。だが、日本の新書は本当に玉石混淆で専門外のひとがとんでもないことを書いていたりする。

- 自分の感覚だと、中公新書＝NHK ブックス＞ちくま新書＞岩波新書＝講談社現代新書 という順で良書が多い。講談社現代新書はやたらに数が出ているが、本当に玉石混淆。これ以外の新書（角川、PHP、文春など）は勉強目的で使うのはかなり慎重になる必要がある。

- 大学生がある分野について基礎知識を得たい場合、まずはつまらなくても教科書を読んでみて、そこについているブックガイドを参考に読んでみるのが重要。良心的な教科書はブックガイドも充実していて、初学者向けから中級者向けまでフォローしているはず。その際の教科書は出来るだけ新しいものを選ぶ。分野によっては1990年代のものでも古い。

- 信用の出来る著者、出版社、レーベルなどについての自分なりの基準をもっておく。amazon レビューやtwitter を使って評判を調べるのもいいが、ベタ褒めの☆5や極端なこき下ろしの☆1は無視して冷静な視点のレビューだけを信用すること。

- 今回挙げたものはほとんどが入門書。業界では入門書を書くのが一番大変だといわれていて、どの本もその分野では一流と見なされているひとが執筆している。ただし、よい卒論を書こうと思ったら入門書や新書だけでは不十分。日本語のものでいいから学術論文も読んでみる。cinii という便利なサイトがあり、そこにキーワードを入れて探す。新しいものを優先して読んでみましょう。